



書評

[評者]

木澤義之

神戸大学病院特命教授・緩和
支持治療科

Advance Care Planningの エビデンス

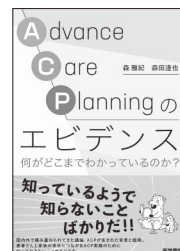
何がどこまでわかっているのか？

森 雅紀，森田達也 著

●B5 頁204 2020年10月

定価：本体2,400円＋税

[ISBN978-4-260-04236-9] 医学書院刊



10月の爽やかな週末に、旅のお供として本書を持って出かけ、楽しく読破させていただきました。ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の始まり、歴史、定義、エビデンス、最新の研究の動向を包括して学習できる良書だと感じました。

本書には、著者である森雅紀先生（聖隷三方原病院緩和支援診療科）の、誠実で前向きなお人柄が溢れ出ています。ACPという重くなりがちな話題を、穏やかな気持ちで読むことができ、そして重要な研究は仔細に検討され、著者とのインフォーマルなやり取り、豊富な臨床経験に基づきプラスアルファの情報が書き込まれています。著者の米国と日本での豊富な臨床経験と、書く力に基づいた記述は素晴らしく、特に英語に関して言えば、本書に出てくる複数のやりとり（例えば Joanne Lynn 先生や Rachelle Bernacki 先生）のときには、実は私も同席していたのですが、アルコール（？）の影響も手伝って内容があやふやで、本書の記述を読んで「ああ、それを話してたのかあ」と思い至ることもあり、改めて森先生の能力の高さと見識の深さに感銘を受けました。

参考文献については若干がん領域に偏っている傾向はありますが、重要な文献がカバーされており、これだけ読んでおけばま

ずまず大丈夫、と言っているのでは？ と思いました。

また、巻末の森先生と共同執筆者の森田達也先生の軽妙なやり取りも、実際に会議でお会いしたり、Web会議で話したりしているときのご様子がそのまま書かれている感じで、両先生の自由さと気質、リラックスしたコミュニケーション、学び合う姿勢、お互いに対する尊敬の気持ちが手にとるように感じられました。ここでは“雑談”と称し、「ACPって医療上のことだけでなく、人生全体のことなの？」「家族が反対していても、本当に患者の意思に従える？」など、ACPを巡る素朴な、でも大切な疑問が取り上げられています。お二人のやり取りを通じて、日頃抱えている疑問が解ける読者も多かろうと思います。

特にACPの臨床や啓発普及に深く取り組みたいと思っていらっしゃる方、そして研究や発表を考えている方は必読と思います。私自身は、散漫になりがちだった雑多な知識が統合され、なぜか不思議に前向きで温かい気持ちになります。本にも心があるのだと、本当に不思議な気分です（森先生に心より感謝します、あ、森田先生にもね）。関係の皆様のご一読を心よりお勧めいたします。